

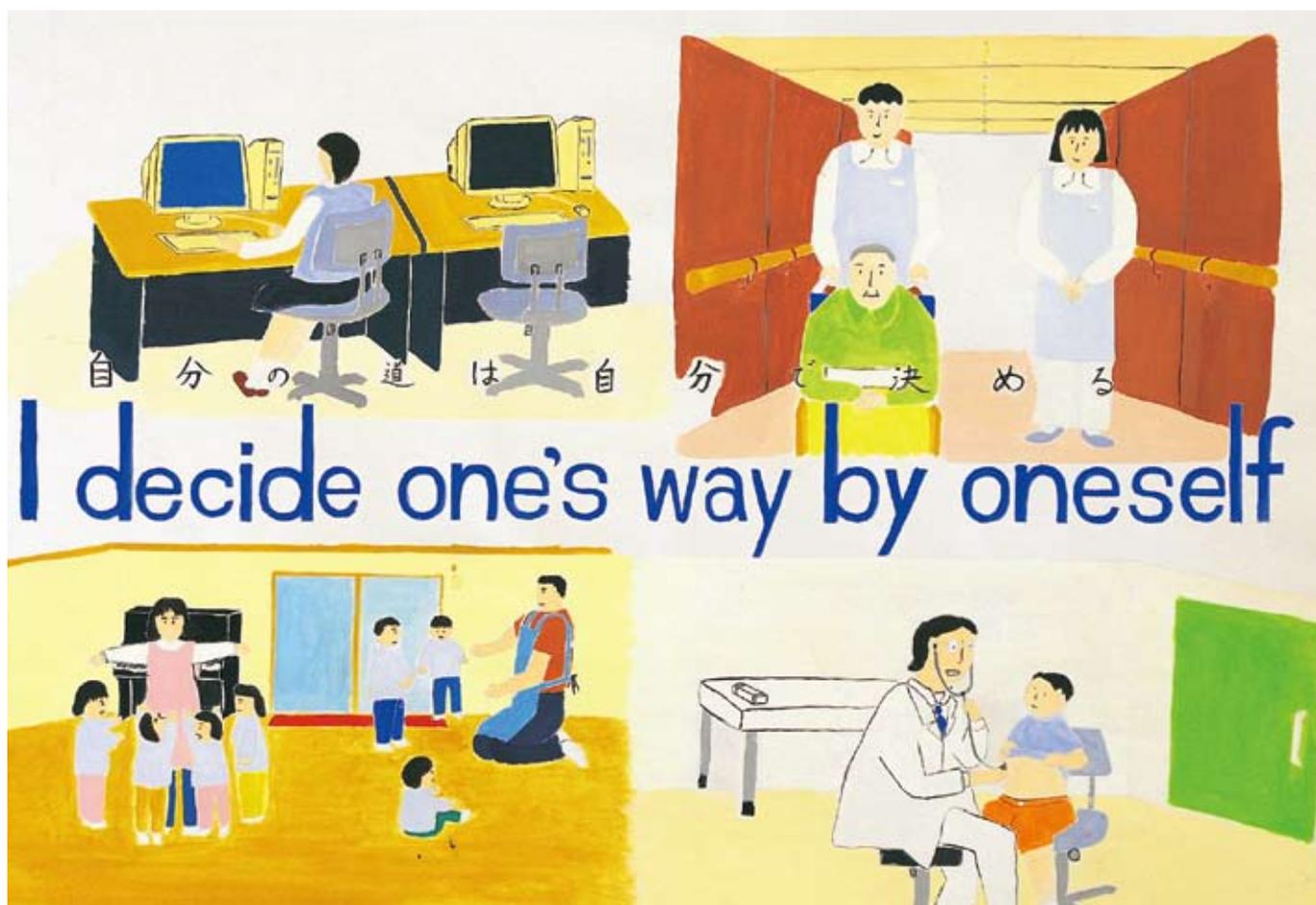
# アイアム

Vol.

37

「アイアム」ってご存じですか？

～自分の考えを自分の言葉で話す、そんな生き方がしたい～  
…そんな意味を込めて



平成19年度「男女共同参画社会づくり」小・中学生 図画・ポスターコンクール  
中学生の部 最優秀賞

特集

家族の絆・地域の絆

# 家族の

絆とは、家族や友人の結びつきを

離れがたくつなぎとめているもの

(天辭林より)

固い絆で結ばれていると思うていた夫婦や親子関係、親友との永いつきあい……それがふとしたきっかけや様々な社会的な要因でいとも簡単に断ち切れてしまうこと、それは、日々のニュースや周囲を見渡してもそんなに特別なことではありません。血が繋がっているから、住んでいる地域が同じだから、ともに生きてきたから、絆とは、そういう属性の中だけで存在するものではなく、その結びつきを離れがたくつなぎとめるための、人とひとの努力や協力など、ともにはたらく力があってこそ強固になっていくものかもしれません。



## プロフィール

名前：ヴィルジニー・ルフェーヴル・ニシ  
(服飾デザイナー)  
出身国：フランス  
家族：夫（日本人） 長女（1歳）  
来日：2001年3月

## 夫婦で一番大切にしていること

思ったことは何でも話し、国の習慣の違いやお互いの意見をミックスして、より良い選択をするようにしています。よく喧嘩にもなりますが、納得がいくまで話をすることでお互いの良いところを吸収し、信頼し合っています。

## 日本に来て関心があること

モダンと歴史が混ざり合っていて、日本のカルチャーにはとても興味があります。

また、日本のクリエイターはとてもシンプルでピュア、そして革新的でエレガント。私の作品にも大きく反映されています。

## 子育てで協力し合っていることは

仕事と子育ての両立はとても難しいですが、子どもと接する時間をとても大切にしており、時には時間を忘れてしまうことがあるので、夫にうまく時間の管理をしてもらっています。食事とお風呂は交代制で楽しみながらやり、そして親子3人の時間を毎日欠かさず取るようにしています。夫は日本語、私はフランス語を話すことによって、子どもには2つのカルチャーを学んで欲しいと思っています。

## 日本で生活してみて、フランスとの違いは

フランス人はダイレクトに物事を伝えますが、日本の方たちは気を使い過ぎなのではないでしょうか。でも、フランス人と日本人の共通点は、美しさの追求と礼儀を大切にしているところですね。

## 日本でのこれから

日本に来て6年目になりますが、私の可能性を広げて、新しい感性を与えてくれました。家族には反対されましたが、本当に日本に来てよかったです。言葉の面ではまだまだですが、早く理解できるようになり、日本の歴史や文化を学びたいです。お茶やお花などにも挑戦したいです。

最近、岡保地区の子育てサロン（は～とぼほ広場）にも顔を出していますが、住んでいる地域にも子どもと一緒にとけ込んでいけたらと思っています。

# 絆

今回の特集では、福井市在住の4つの国の家族(フランス・ブラジル・中国・日本)を取材し、言葉や生活習慣、文化の違う夫婦や親子を通して、違う故にあえて大切にしていることは何なのか、夫婦間で努力・協力していること、また子どもたちへ繋いでいきたいことは何なのか、などを通して家族の絆を考えます。



## プロフィール

名前：デリマスザナ アラ 31歳(主婦)  
出身国：ブラジル  
家族：夫(ブラジル人)、長男(3歳)、長女(5ヶ月)  
来日：約2年半前



## 日本で生活してみて、ブラジルとの違いは

日本人は礼儀正しくて親切です。外見が違うので、町に出かけたときなどに声をかけてくれたりすることがあります。そんな時はうれしいので、私も知らない人にでも挨拶をするようになりました。でも、少し差別を感じることもありましたが、挨拶をしても返してもらえなかったり、少し前まで働いていたのですが、職場ではよく差別を感じました。今は文化や言葉の違いで、自分の思いを充分にあらわせないことが、一番の悩みになっています。文化の違いでは、最初はトイレの使い方、靴を脱ぐこと、お箸の使い方などで困りましたが、今は慣れてきました。自分の家族や親戚がみんなブラジルにいるので、時々恋しくなりますが、心がつながっているのががんばれます。夫や子どもがいて元気をくれます。夫婦、親子の絆は大切にしたいと思っています。また、遠く離れていても、家族の絆はしっかりつながっていると思っています。

## 夫婦で一番大切にしていること

できるだけコミュニケーションをとることによって夫婦の信頼関係をよくしようとしています。何でも話し合える夫婦だと思います。日常的に、言葉に出して「愛している」と言い合っています。性格も合うし、ケンカすることもあります。

日本の生活は、仕事ばかりで休みが少なく、自分たちだけの時間が少ないので、できるだけ夫婦の時間、自分の時間を持つように努力しています。すれ違いのないように心がけています。

## 子育てで協力し合っていることは

子どもが初めて生まれて大変な時期は、夫は精神面でも生活面でも協力して支えてくれました。自分から積極的に手伝ってくれます。上の子をお風呂に入れたり、私が夕食をつくっているときは子どもの面倒を見てくれたりします。私のストレスがたまらないように、上の子を連れて出かけたりと気を遣ってくれて、精神的にも支えられています。病院や日常生活では、夫が日本語を話せるので困ることはありません。

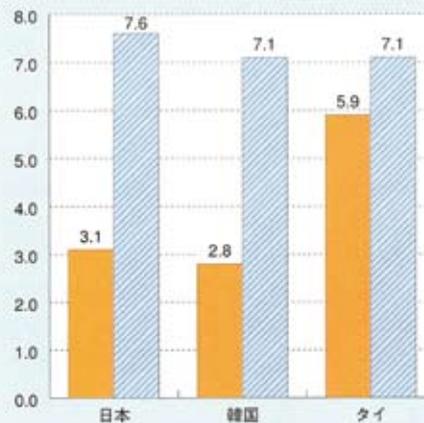
## 日本をどう思うか

日本も日本人も大好き、今では日本の生活が住みやすく安定しているので、ブラジルに帰って同じように暮らせるか心配です。いずれブラジルに帰ることになるでしょうが、それは10年ぐらい先のことになると思います。早く言葉が自由に話せるようになりたいです。夫やブラジル人、ポルトガル語の話せる日本人の友だちの物心両面の支えがあるので、暮らしやすいです。今日のように、子育て支援委員会に来るときも送迎してくれる人や通訳をしてくれる人がいてくれるので、感謝しています。

# 家族の



子どもと一緒に過ごす時間



## プロフィール

名 前：藤本 悦 39歳  
協同組合K.F&H 事務局長  
(来日した研究生の受け入れ)  
通 訊 来日している既婚者のサポート  
出身国：中国 元小学校教師  
来 日：平成5年5月  
趣 味：海・山の自然を見る (エネルギーをもらう)  
家 族：夫(50歳)・長女(中2)・次女(小5)・義母

## 夫婦で一番大切にしていること

見合い結婚でしたので、ことばの壁や生活習慣の違いの中で、自分達の思いをことばに表し、会話のキャッチボールで通じ合い表現することで、お互いに関心を持ち、感謝する心が大切で、無視される事はとても辛いことです。夫は口数が少ないのですが、ことばの壁を乗り越えられたのも両親との同居で、特に舅とのコミュニケーションにより、日本語のできない私を育ててもらい日本を理解することができました。両親にとっても感謝しています。

## 子育てについて

両親がお互いに尊敬し、愛しあっている事をいろんな形で表し、家族を愛し感謝しながら、ひとりの人間として接し、世界に通じるよう育てることが大事だと思います。

親として子どもにしてあげられるのは、自分を大事にすることを考えさせることです。大人が先に手を出し、してくれるのが当たり前になり、感謝もせず不満を言い、人のせいにするような子育てはよくないと思います。

## 絆について

中国では親に対し絶対的な感謝の心があるので、親は子どもがみんなです。親に対し感謝があれば夫婦や家族の絆は深まり、私生活でも、舅や姑の介護をし、舅を見送ることができたのだと思います。最後に日本には、何よりも大好きな夫がいて、愛する家族があるから困難な事にも耐えられます。これからも日中の架け橋になり役に立ちたいと思います。

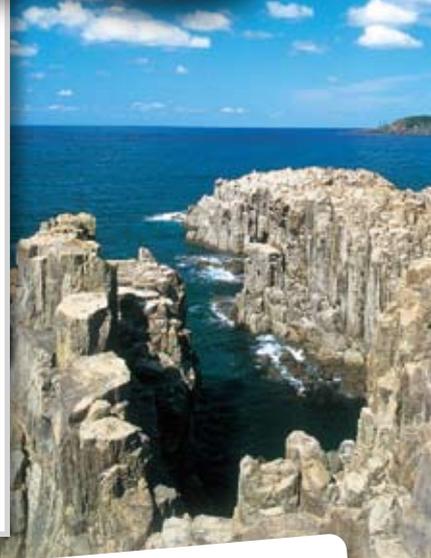
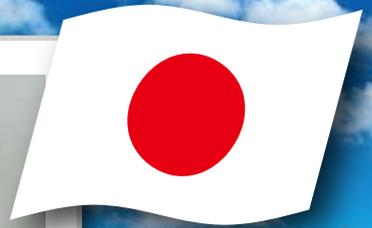
## 中国と日本の家庭の違い

日本の親はわが子しか目に入らず、自分のことだけで他のことには無関心を装っているように思います。中国語教室を開いていた時は、保護者がいても悪いことはきちんとわかりました。また、母親だけで子育てをしているように見えます。特に3歳までの子育てに父親が見えず、その結果母親は、愛するわが子を育てることで子どもを支配し、子どもは大きくなっても母=女は何でもしてくれるとの思いが身に染みこみ、自立できない大人になっているのではないのでしょうか。

日本の男性は女性を引っ張っていき、女性は前に出すぎずついていくというイメージがありましたが、周りを見ると、家の中では妻が自分の居場所を取られないよう全部してしまう結果、夫は何もしなくなり、妻にまかせっきりになるように思います。

中国では、夫と妻・男と女でなく「人と人」としてお互いに行えることをします。それは中国の両親からもうかがえます。

# 糸



## プロフィール

名前：小澤真次 36歳（公務員）  
出身：埼玉県  
家族：妻（主婦）、  
長女（6歳）、次女（4歳）、長男（1歳）  
来福：約3年前

## 夫婦で一番大切にしていること

結婚して12年経ちました。ずいぶんあちこち転勤しましたが、アメリカから帰国して東京にいた時、長女が生まれました。その後も転勤があり、3年前福井へ来ました。今は一男二女の五人家族です。私達が大切にしていることは、「休日は家族デーとしてなるべく仕事を持ち込まない。夫婦間で思っていることを率直に話し合う。それが時に口論に発展しても、最後はお互いに納得するので、隠し事がなくなり、くよくよ悩まなくなる。」ということです。現在は子育てで真っ最中なので、二人で協力して子どもを育てることが一番大切だと思っています。

## 子育てについて大切に思っていること

子どもは大変だけど、一緒にいて楽しいですね。私達は自由にのびのび育てています。家事をしながら子どもの動きを見られるように、家の中は3部屋の仕切りを取り除いてありますが、子どもたちはそれぞれ個性を持っていて、感心させられます。ですから、親がルールをひいて子どもの進路を決めるようなことはしたくありません。しっかり成長してくれて、自分の進路は自分で決めてくれれば良いと思っています。自立できる人に育てることでしょうか。

## アメリカの家族をみて感じたことは？

アメリカでは「家族を大切にする」のが当然の「権利」というふうでした。5時になると仕事をやめて家庭に帰るのが普通でした。ただ、仕事のパターンによって時間は違うかもしれませんが、それぞれ家庭に帰ることを大切にしていました。また、アメリカではよくパーティーをしますね。地域の人達が集まってパーベキューやサイクリングをして、楽しく交流していました。日本もそんなふうになると良いですね。

## 家庭や地域社会の絆について

妻は、いつも三人の子どもを見ていますから大変な苦労もあると思います。精神的にも参って「ブツツ」と切れそうなことも…だから私も仕事で融通のつく時は、できるだけ家事や子育てに協力しています。茶碗洗いや洗濯、子どもの入浴の世話などいろいろします。家族の絆は子どもの成長と共に強くなっていくのではと思っています。また、地域の行事には積極的に参加して交流を図っています。長女は一年生になると子ども会へ入れてもらえるので、それを楽しみにしているようです。

## 福井について感じたことは？

いろいろな土地を転勤してきて、福井は小児医療や子育て支援がわりと充実していますね。以前住んでいた所では、病気の子の診察に2時間も待たされたことがありました。それから福井は車社会ですが、子どものいる時はスピードを落として、優しい運転を心がけて欲しいと思います。

# 地域の

地域は今どんどん変貌しています。押し寄せる少子・高齢の波、崩れつつあるよき伝統や風習、薄れ行く相互扶助の心。時代の流れに竿をさすことは難しいですが、地域に愛着と誇りを持ち、少しでも住みよい「うらがまち」にするため、地域の絆の再構築を目指している地区も目立ってきています。

## 越 迺



### 思いやりで結ばれている人々 ～越迺地区の子ども見守り隊～

越迺地区は人口約1800人の小さな山里です。そこで地区の事業と家の生活を守りながら暮らしている山本正男さん(56)をお訪ねしました。

越迺地区は、越前海岸に沿い、山が迫っているような厳しいところですが、それだけに地元への愛着と誇りはひとしおのようです。

「冬の水仙の香りは日本一、海辺に沈む夕日の美しさは、私たちでもその荘厳さには息をのみます。そして、お互いを思いやる人の心、今、日本から失われつつあるものがいっぱい残っていますよ。」と山本さん。しかし、ちょっと寂しさものぞかせます。

「福井市との合併で道路や水道料金などについては整備されましたが、地元企業がないので、若者はみな仕事を求め『まち』へ出て行ってしまいます。従ってこの地区では子どもが減り、高齢者のみ残され、地域の活力がすこずつ衰えているのです。そこで地域と子どもたちとの絆を強めたくて、今年『子ども見守り隊』を立ち上げました。子どもの登下校の安全を地域全体で見守るためですが、これによって子どもと地元の人たちとの交流が一層深まったように思います。」山本さんの笑顔がさらに輝きました。

糞置荘と文殊山へのパノラマ

## 上文殊

### 地域の絆で奈良東大寺へお米送り ～上文殊地区の歴史への挑戦～

今から18年前の平成2年(1990年)に、当時の上文殊地区の12名の自治会長が「上文殊地区総合開発委員会」を立ち上げた。21世紀に向けた継続性のある地区の発展を図るには、地域の絆に裏打ちされた「人づくり」が最重要との視点でスタートしたので、福井市の市民参加型(運動会型)「うらがまちづくり事業」に先んじること4年、福井市、いや県下の地域づくり、まちづくりの先駆者と言える。

平成2年12月に策定した「アメニティータウン基本構想」を踏まえてワークショップ、アンケート調査などを積み重ね、たどりついたのが史実に基づいた奈良東大寺との深い関わりだ。奈良時代に、文殊山の麓に広がる上文殊、文殊地区にまたがっていた東大寺の荘園「糞置荘」に着目し、東大寺の秋の大祭(10月15日)に参加して、越前米コシヒカリを3俵奉納したのが、平成11年であった。

その後、福井市の21世紀わがまち夢プラン事業に組み込み、平成14年12月の「東大寺と越前」シンポジウムなどを開催しながら、今日に至っている。春の「お田植え式」秋の「刈り取り式」「東大寺大祭への奉納」「収穫感謝祭」は「お米送りの里、上文殊」の児童生徒から年配の人たちまでが参加する地区を挙げての催しであり、住民が自ら参画することにより、地域の絆や誇りと愛着を守り育て、新たな歴史と文化を創り上げている。



歴史を活かした地域文化の振興  
(東大寺お米送り・お田植え式)

# 糸

## 日新



### 川から学ぼう ～日新環境部会の活動～

第28回日新公民館まつりは、地区の人たちが会場に入り切れない程ごったがえしていた。会場の展示でふと足を止め感心して見ている人たち。子どもたちの作品『魚拓』である。「こんな大きな魚がたくさんいるんやのう。」「底喰川もきれいになったもんや。」そんな声が聞こえてきた。

日新の環境部では河川改修を機に地区の中心を流れる底喰川を美しくするために第3日曜日に川掃除をすることや、夏の草刈りを区民に呼びかけたり、清掃だけでなく環境問題について区民の意識を高める工夫などを、毎年委員で話し合う。菖蒲を植えること、水辺の植物の観察、稚魚の放流、魚つり等、小学生にも呼びかけて川に関心を持ってもらう。

『川が生きていること』と『人が川と共に生きること』をわかってもらいたいという願いで毎年行事プランをたててきた。19年度は「花しょうぶを観る会」「写生大会」底喰川に沿って歩く「底喰川ウォークラリー」「魚つりと拓本づくり」などである。

拓本は自分の釣った魚を再認識させてくれる。川からの贈りものの魚。釣り上げた時の喜び。魚の美しさが魚拓の中に凝縮されるのだ。大人の指導を受けながら子どもたちは真剣に魚拓作りに挑戦した。一人二枚ずつ（一枚は自分のため、一枚は公民館まつりの展示用に）完成した作品は家庭の話題となり、また地域の人たちの話題になったことであろう。

今回は、地域の特色をふまえながら、まちづくりを通していろいろな人たちが力を合わせている3地区にスポットをあててみました。



男性がいわれて嬉しい言葉

パンパ かわこいい!!

助かったわぁ ありがとう!!

さあかん

この言葉でヒーローになる

誰でもうれしい感謝のことは

とくい分野でほめられるのもいいものであ。



## おひとりさまの老後

上野千鶴子著  
発行:法研 定価:1470円(税込)

著者略歴  
上野千鶴子 [ウエノチツコ]  
1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。1993年東京大学文学部助教授(社会学)、1995年東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は女性学、ジェンダー研究。1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサンロー学芸賞を受賞。

女性学、ジェンダー研究のパイオニアとして、家族や女性の社会的な課題を鋭く発表してきた著者の最新話題作。「結婚してもしなくても、みんな最後はひとりになる。」から始まる本著は、超高齢化社会における「おひとりさま」特に女性の老後の生き方を“家族する”ノウハウから“ひとりで暮らす”ノウハウへのシフト・準備にむけての具体的・実践的な考察が大変興味深い。

65歳以上で配偶者がいない女性の割合は、55%(半数以上)に対し、男性は17%。80歳以上になると、女性の83%に配偶者がいない。「おひとりさまは女ばかり」の時代にどう暮らすか。どう暮らすことが「幸福感」につながるのか。シングルキャリアでもある著者の知恵や工夫に加えて、社会学者としての多くの取材や実践家の取り組みが紹介されている。中でもシングル女性のための都市型総合住宅を企画した女性議員の事例などは、あらゆるネットワークを活用し、各分野の専門家を集めて企画運営し、経済的負担を抑えた配慮や地域に開かれた施設の取り組みなど、暗く捉えるだけの老後ではなく、積極的に切り拓く糸口も見える。おひとりさまの老後のスキルとインフラの中では、やはりお金の使い方は特に重要だ。最後には、介護される側の心得10カ条やおひとりさまの死に方5カ条など、著者独特の切り口も登場するが、安心と幸福感を得るために“ひとりが基本”の暮らしに向き合う女性たちがあたりまえの時代に確かに近づいているようだ。

## 今回の表紙



清水中学校 3年 荻野 裕平さん

荻野さんは「私が選ぶ私の進路」というタイトルで「男女という枠にとらわれず、個人が自分の能力を十分に発揮できる職業に就き、社会に貢献していこう」ということを表現したかったとのこと。

審査員から「落ち着いた色あいが、画用紙の白と調和して美しさが出ています。黄線の色が効果的です。中学生らしい、進路に関連した意図が込められた作品」と高い評価を得ました。

将来は自分が好きな理科や数学を生かすことができる職業に就きたいと考えているそうです。

未来に広がる可能性を狭めることなく自分の適性に合った仕事を選んで欲しいですね。

## パートナーからの暴力ホットライン

夫婦や恋人などからの**身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力・性的暴力・子どもを巻き添えにした暴力**に対し、下記機関があなたを支援します。

支援センター 配偶者暴力被害者	福井県生活学習館(ユ-アイふくい)	福井市下六条町14-1	0776-41-7111 0776-41-7112	火曜日～日曜日 (第3日曜日、国民の祝日の翌日を除く)	9:00～17:00
	福井県総合福祉相談所女性相談課	福井市光陽2-3-36	0776-24-6261	月曜日～金曜日	8:30～17:30
	福井健康福祉センター	福井市西木田2-8-8	0776-36-2857	月曜日～金曜日	8:30～17:30
警察本部	警察安全相談室	福井市大手3-17-1	#9110 又は 0776-26-9110	毎日	24時間対応
	女性被害相談電話		0120-292-170 0776-29-2110	月曜日～金曜日	8:30～17:15
地方 人権擁護課	福井県人権センター	福井市手寄1-4-1 (アオッサ7階)	0776-29-2111	火曜日～金曜日 第2、4日曜日と その前日の土曜日	9:00～17:00
	女性の人権ホットライン	福井市春山1-1-54 (福井春山合同庁舎)	ゼロナナゼロのホットライン 0570-070-810 (PHS、IP電話からはつながりません)	月曜日～金曜日	8:30～17:15
	人権相談		0776-22-5141		
NPO法人 福井被害者支援センター		福井市手寄1-12-23 (福井心のクリニック ポスト2号)	0776-32-5111	水曜日	16:00～20:00
				火・金・土曜日	14:00～18:00
福井市男女共同参画・子ども家庭センター相談室		福井市手寄1-4-1 (アオッサ5階)	0776-20-1541	月・水・金曜日	9:00～18:00

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)があなたを守ります。

## 編集後記

阪神大震災の復興住宅で暮らす被災者の孤独死は昨年1年間で60人。この8年間で500人を超えたとのこと。大都会での痛ましく、寂しい現実が浮き彫りにされている。家族、地域社会での濃密なつながりや絆が薄くなっているからでもあろう。福井ではまだそこまでいっていないが、傾向としては進行中。手をこまねいているだけでは福井、田舎の良さが失われる。これからが踏ん張りどきだ。

## 企画・編集／アイアム編集委員

岩木 弥恵子 田中 芳枝  
戸出 瞳 畑岡 久子  
藤井 輝雄 蓮花 慶子  
(50音順)